



新年会開催 参加者過去最多の70名

稲門会四大イベントの最初となる新年会は、1月22日（土）、昨年と同じ会場の「サンパルネ・コンベンションホール」で開催されました。参加者は70名と過去最多、会是小亀会長の挨拶でスタートしました。会長は、箱根駅伝で好スタートを切った母校の躍進にあやかるべく、当東村山稲門会の今後は「会員増強」がポイントであること、（現在の195名を早期に200名以上にしたい。）そして、早稲田で学んだ縁を大切に、多摩26稲門会の連帯感を一層強めていきたいとの決意を述べられました。

続いて昨年11月母校の理事に就任された会員の迫田実さんが、奥島元総長が「早稲田スポーツの復活」に尽力され、今日の隆盛を見るに至ったこと、その経緯を他の大学が研究し追随しようとしていると話されました。

昨年11月の総会以降の新入会員で本日参加されたのは2人。坂本英夫さんは家裁の調停委員として活躍中、佐々木晶敏さんは今年3月でサラリーマン生活の第一線を退くので、稲門会の活動に今後の活路を見つけていきたいとの、頼もしい言葉を述べられました。

今回も、多くの会員からの飲物等、又地元の老舗和菓子店の餅万さんから紅白の饅頭が差入れされ、おみやげには東村山稲門会の刻印の入ったどら焼きと司会が紹介、そして風間副会長の乾杯で楽しい懇親の会が本題に入りました。

20分の後、本日の最初のイベント、當摩彰子副会長とバンド仲間2人による「オートハープ」の演奏。名曲の美しい音色に皆が酔いしれました。歓談の輪が広がる中で、第2のイベントは小野智さん司会の「大抽選会」。小亀会長提供の早稲田グッズ10点と、本日の料理を担当してくれた東村山給食センター差入れの大粒イチゴ6箱をめぐり、涙ぐましい戦いがくり広げられました。抽選の度にあがる歓声と溜息、商品をゲットした皆さん、今年の幸運をまず引き当てた思いを強くされたでしょう。

その後も6つのテーブルの周り、会場にセットされた椅子席には、あちこちに歓談の輪が広がり、予定の時間はあっという間に経過しました。最後はやはり校歌、会場は防音装置がしっかりしており、外部を気にすることなくそれぞれの思いを込めての大合唱でした。

帰宅されて味わった餅万特製の「どらやき」、味はいかがだったでしょうか。

（當間昭治 記）

《出席者》

青山稔、赤荻洋一、阿部茂、飯塚輝夫、井垣和太、池田孝、井原徹、江藤昌明、大内一男、大森平八郎、岡田一郎、小野智、風間和夫、加藤正俊、木谷肇、木谷夫人、久世利夫、倉田哲也、小亀輝雄、小亀夫人、小林傳、小林俊治、坂本英夫、佐久間厚、迫田実、佐々木晶敏、重原真知子、鈴木国夫、相馬信一、高橋鶴次郎、高橋正夫、高部素行、高鷺近、滝川桜子、滝川正義、滝来洋二、田口政澄、武井勇治、田島隆夫、田代光一、月森通夫、土橋雄次、當摩彰子、當摩照夫、當間昭治、戸田志郎、豊田友吉、内藤慎、長井治、中村真弓、南湖修一、額田伊久夫、野田数、野中昭夫、番場吉次、樋地正秀、福田昇七、藤澤博恭、松澤宏、松永常尚、丸本聡明、三宅良太、森本吏、八木正晴、安田忠治、山下邦康、山下夫人、吉田勝、當摩彰子バンド仲間2名（敬称略 計70名）





○ 平成23年3月 定例役員会

日時 : 平成23年3月5日(土) 13:00～15:30

場所 : ふるさと歴史館

17時より「丸藤」で3月、4月生まれの方の誕生会を行います。該当者の方はもとより、一緒に楽しく祝って下さる皆様のご参加をお待ちしています。(下記参照)

○ 3月度・4月度合同お誕生会(担当幹事 滝川 394-8187)

日時 : 3月5日(土) 17:00～19:00

場所 : 割烹「丸藤」 久米川駅南口から徒歩1分

電話 042-395-5646

会費 : 3,000円

該当の方々ぜひこの合同お誕生会にご参加ください。お待ち申し上げております。(特に4月誕生月の方は、この3月5日に実施ですので、お間違えのないようご注意ください。)

なお、誕生月ではないが誕生月の方と一緒に祝いしてくださる方のご参加も歓迎いたします。ご希望の方は担当幹事までご連絡ください。また、誕生月該当者で、下記されていない方は担当幹事までご連絡ください。

☆ 3月度お誕生の方々(敬称略 20名)

朝木吾朗、飯村和子、井垣和太、遠藤 誠、大野恵子、岡部幹郎、大森平八郎、窪田淳治、
紅松容子、肥沼恒夫、杉山 信、鈴木国夫、関 一誠、高柳 剛、田代光一、豊田友吉、
細萱 進、山崎光夫、山室 勲、松井 淳

☆ 4月度お誕生の方々(敬称略 19名)

石井久長、金城寛文、久世利夫、小菅 宏、小林裕子、重久和彦、武井勇治、高橋文子、
滝川正義、土橋勇次、當間昭治、中村皓一、中村真弓、成田延雄、額田伊久夫、松澤 宏、
森川節子、八木勝利、吉高太郎、

○ 第72回雑学講座

日時 : 平成23年4月9日(土) 15:00～16:30

場所 : 未定

講師 : 川村弘史氏(東京水産大卒 元キューピー役員)

演題 : 「たまごとマヨネーズの話」

川村氏は久米川町在住で、東村山市社会教育委員を3期務め、現在東村山市の公民館運営審議委員会会長。昭和36年キューピー入社、主に営業畑を歩まれ、平成11年役員で退職されました。同社をマヨネーズのトップメーカーに育てあげたご苦労話と、たまごとマヨネーズとの係わりについて、楽しい話をさせていただきます。

○ 新入会員

坂田道子さん S57・文 (當摩彰子副会長紹介)
多摩湖町3-4-42 Tel 396-4115

☆大学関連ニュース☆

箱根駅伝18年ぶり13度目の優勝

1月2日・3日に行われた箱根駅伝は往路を2位で終えた早稲田大学が、6区高野で東洋大を逆転、その後もリードを守りきり、2位東洋大と21秒差、大会史上最小差での優勝に加え、10時間59分51秒の大会新記録で13度目の優勝を成し遂げた。また、出雲駅伝、全日本駅伝と合わせて、史上3校目となる「三冠」も達成。ついに渡辺康幸監督が宙を舞った。



箱根駅伝 早大優勝に思う

井手 巖 (S26・政経)

私と箱根駅伝とは聊かながら繋がりがある。繋がりと言っても大したことではなく、何十年か前に家族旅行で箱根へ行った帰りにたまたま箱根路を激走する箱根駅伝の早稲田の選手に出逢ったと云うだけの縁ではあるが、とにかく箱根駅伝は私にとって無関心ではいられない特別の行事なのである。

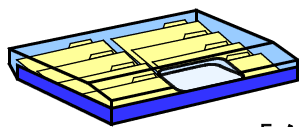
そんな私が今年の箱根駅伝のスタートをテレビで見ている、思わず笑みを洩らしたのは開始早々の肌を刺す冷気を衝いて走りだした一団の中から単騎ポンと抜け出して来たのが臍脂にWの文字を胸に浮かせた早大の選手だったからだ。全国高校駅伝で常に上位を争う佐久長聖高出身の若武者大迫傑はあれよあれよという間に後続の群をどんどん引き離しにかかり、結局2分17秒の差を保ったまま二区平賀選手にタスキを渡したのだが、この彼の思いきった力走は後に続く早大各選手の意気込みを更に高める働きを為したことは疑うまでもない。

それと、初日の五区で、東洋大の山登りの名手柏原選手に抜かれはしたものの僅か27秒差にとどめた猪俣選手の踏ん張りも大きかったし、二日目の六区を受け継いだ高野選手の力走も神業に等しいものだった。8.6キロを過ぎたあたりで東洋大市川選手に並んだ高野は15キロ過ぎで転倒するのだが、すぐに起き上がるなり何事もなかったように走り出し、忽ち先行する相手を抜き去って、36秒もの差をつけて七区三田選手へと繋いだのだから、恐れ入谷の鬼子母神である。

その他一度もトップを譲らずに走り抜いた各区の選手達にもそれぞれの知られざる苦労があった事であろうし、最終十区では35秒差から21秒差まで追いつかれながら懸命に逃げまくった中島選手のそれこそ死ぬような思いは見る側にも伝わってくるものがあり、まさに今回の早大の優勝は筋書きのないドラマを見る思いであったように思う。

訃報

当会会員柴田 元さん(57歳)(S55・文)には1月19日ご逝去なされました。
長い間闘病をなさっていましたが、残念です。心からご冥福をお祈り申し上げます。
通夜・告別式はご自宅で家族葬で行われました。
なお、会則により生花をお供え致しました。



「名刺」アレコレ 日本とアメリカこんなに違う「名刺」感！

山下邦康（S36・教育）

前項で「政治家の名刺」について書かせて頂いた。40年ほど前、私が若僧の頃、仕事柄日米企業の橋渡しの様なことやってきた。最初は無我夢中、右も左も分からぬ一匹狼同然。日本の巨大商社や監査法人にも痛く、苦い思いも経験した。「名刺」なんてとるにたらぬ小さなことだ。最初はその程度の思いで、ワザワザ仰々しい英文(ローマ字)の「名刺」を銀座の伊東屋で作り渡米した。ボストンの先生に最初の一枚を渡したところ意外な返事もらった。「君は東京から着いたばかりだろ、君は日本人だ！」「どうしてこんなネームカードを持って来た」、日本人なら日本語の「名刺」でよい。イヤ、その方が商売がうまく行くはずだと 厳しくも優しくアドバイスしてくれた。「ローマ字」刷りの名刺なんて實際上、アメリカ人にはたいした役に立たない。それより漢字の方が印象に残って良いかもしれないと言いたいらしい。私の40年前米国上陸「名刺」第一事件である。

欧米人が仕事で日本に出向く際、必ず「伝説的なアドバイス」を仲間から伝え聞くハメになる。それは日本人は仕事に関係あるとあるまいと初対面から「名刺」の交換から始まるということ。会った瞬間からネームカード・ビジネスカード(名刺)を出さない限り話は一步も先に進まないと教えられ当惑するのだ。元来、欧米人は普段から「名刺」を持ち歩く習慣がない。あってもホンノ数枚程度だ。たとえビジネスに関する場でも初対面の時はまず顔合わせ、はたして互いに仕事になるのか、又続くのかをみた結果次第で必要なら初めて「名刺交換」となるわけだ。別に彼等が出し惜みをしているわけではない、習慣の問題だ。日本人は誰彼見境なしに「名刺」を配って歩くさまを見ると欧米人には最初不思議でならないらしい。彼等はまず相手の「人」を理解しようとする、相手の「会社・仕事」を知ろうと努める。その方が大切、第一の役目なのが当然のはずだ。

米国人の「名刺」のサイズが日本のそれより一回り小さいのは滞在・出張経験者なら誰でもご存知のこと。天地5.0cm/左右8.8cm程度が多い。名刺の記載も氏名と会社名そして所在地と電話・FAXなど簡単なものが多い。氏名もミドルは省略、役職は社長かマネジャーそれに担当がついている程度、相手により必要な時はやおらボールペンを取り出し名刺に書き加える。日本人の名刺のようにやたら会社名を大きく、所属部課係まで又、会長・社長から始まってご重役・部長・課係長・係長補佐迄ご丁寧に刷り込み、名刺の裏を見ると会社の全国支社・支店・工場・主張所迄スペース狭しと刷り揃えて自社の威容を誇示したつもりでいる。これは欧米人ならずともコッケイ千万に映るのだ。

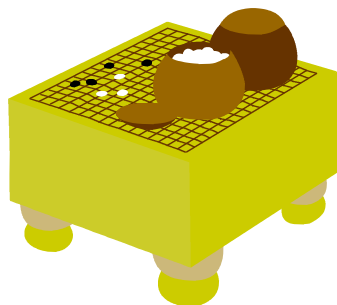
「名刺」あつての自分でなく、まず自分の人格・魅力を知らしめ、仕事の価値を訴えたい。日本も早く「名刺後進国」から脱皮したい。さて日本出張を前に欧米人同士「日本人は名刺を欲しがると、少し多めに持って行った方がイイ」などの送り言葉は忘れてもらいたい。

同好会だより

当会会員の方は、いずれの同好会にも自由に参加できます。

囲碁同好会

世話人 福田 晃 TEL 394-0593
高 鷲 近 394-2336



●2月の「例会」は、下記の要領で開催します。囲碁のルールを少しでもご存じの方は、どなたでも参加できます。お待ちしております。

日 時 平成23年2月19日(土)、午後1時開始

場 所 市民センター別館、第6会議室

○「例会」は、隔月開催です。この会の特長は、勝ち負けよりも楽しく対戦することを主眼としています。そのため、初心者と高段者との対戦も、ごく当たり前に行われています。脳の活性化に抜群の効果があるといわれる「囲碁の例会」に、ぜひご参加ください。

カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 393-5071



新年カラオケ例会を1月8日開催。寒さ厳しい夜でしたが井手、井垣、高鷺、高部、滝川、南湖、内藤の各氏7名参加、歌い初めを賑やかに過しました。

各自夫々1年の目標を決め1年間歌い込もうとの決意で作戦を立て、選曲しながら過しました。

この所各人の進歩は目を見張る物があります。当面の目標は7月の新宿芽ぐみの移動カラオケ大会での楽しい発表会があります。皆さん頑張りましょう。

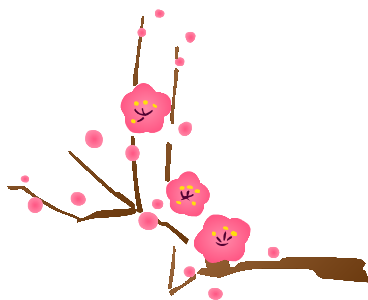
今後の予定

2月5日 17:10より カラオケランド ズー

3月5日 17:10より カラオケランド ズー

俳句同好会（稲酔会）

世話人 井垣 和太 04-2924-2934



第54回「稲酔」俳句会を下記の通りおこないます。
記

開催日時 : 2月26日(土) 午後1時開始

開 場 : 恩多ふれあいセンター 多目的室

兼 題 : 「早春」

出 句 : 兼題句及び当季雑詠計五句

投句参加も歓迎いたします。前日までに世話人宛。

《兼題「早春」》例句

早春は明るくなりて月育ち

友次郎

早春の暁紅の中時計打つ

波郷

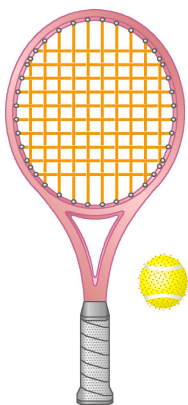
早春の日を吸ふ力石にあり

いさむ

(稲雀 記)

テニス同好会

世話人 田島 隆夫 TEL 396-7676



1月の例会は、1月9日(日)、運動公園Aコートで行われました。初春に相応しい晴天でした。参加者は、市川(彰)夫妻、江藤、小菅、高橋(一)、當間の各氏と田島の7名でした。応援参加があり、差入れのお菓子も頂きながら無事初打ちを終わりました。

江藤さんには、ご友人も呼んで下さり、合宿の種々のアドバイスを頂きました。合宿は本年3月13日(日)～14日(月)と決まり、現在、11名の方が参加申込みをしています。

今後の予定

2月 7日(月) 13時～15時 久米川コート 4

(予備日 2月11日(祭) 9時～11時 久米川コート 3)

3月 6日(日) 9時～11時 運動公園 Aコート

ゴルフ同好会

世話人 井垣和太 04-2924-2934



第29回2011年春季ゴルフコンペ開催

第29回東村山稲門会春季ゴルフコンペを下記のように実施いたします。桜もほころぶ我がホームコースで存分にゴルフを楽しみましょう。ご家族、お知り合いのゲスト参加も歓迎。

記

開催日：平成23年3月25日（金） 8：28～5組
 会場：西武園ゴルフ場（所沢市）
 プレー費：15,000円（昼食付き）
 （70才以上900円割引）
 参加費：4,000円（賞品・パーティー費）

知っ得ゴルフ（6） —暫定球—

「どっちへ行ったの？OB？もう一つ打つの？じゃあ暫定球打ちまーす！」まるで他人より数多く打てるのを喜んでいるようにはしゃぐあなた。暫定球を打つ時には、その旨をはっきりと同伴競技者に伝えることが必要です。タマのマーク（ブランド）と番号も忘れずに大声で……。

暫定球はトラブルになったショットを打った地点から打つもので、見つからない地点から仮に打つものではありません。暫定球の2打数を打ったあとで最初のタマが見つかったも、「ああ良かった、暫定は取り消し。」なんて言えませんよ。『二つしかもってないんだから、自前のタマは大事にしなきゃダメよお客さん。』

平成23年1月・2月度合同「お誕生会」報告



担当幹事：南湖修一 390-2287

新年1月8日（土）午後5時すぎからいつもの割烹「丸藤」で、1月・2月度合同お誕生会が行なわれた。誕生月該当者36名中10名の方々や役員などで総勢22名の参加となった。小亀会長から“長生きの秘訣”を交えたお祝いの挨拶のあと、本日のゲストでもある岡田副会長の挨拶と乾杯の音頭で会はスタートした。冒頭に次回から誕生会担当を引き継いでいただくことになった滝川桜子さんから自己紹介いただき、しばしの歓談後、会長からバースデープレゼントが手渡され、誕生月を迎えられた10名の方々からそれぞれ一言を頂いた。

古希を迎えられる岡田一郎さんは現在でも第三の現役を元気に継続中とのこと、昭和26年2月10日生れの尾島敏雄さんも可能な限り現役をととの表明をされ、昭和7年1月1日生まれの小野智さんは最近再度話題となった長崎県諫早出身とのことであった。理工学部電気工学科卒の倉田哲也さんは地デジ化に関して“ハイビジョン”と“フルハイビジョン”の違いについて蘊蓄を傾けられた。歌がお好きという高橋鶴次郎さんは“杉本まさと”にはまっているとご披露され一部の方々から感嘆の声があがった。次に立たれた高橋正夫さんは現役時代ナイジェリアで密輸ルートの開拓をされた当時の苦労話を語られた。この2月16日で満八十歳になられるという内藤慎さんは、カラオケ、ゴルフ、麻雀、俳句等の同好会でご活躍、昭和10年1月26日生まれという成田豊太さんは、現代の技術の進歩に隔世の感ありとのことであった。化成小学校秋津分校で志村けんと同級生だったという細山和男さんは、東村山を愛するがゆえの東村山に対するご心配を吐露された。最後となった飯塚輝夫さんは病に打ち勝ち今後も郷土史の会やウォーキングの会などで楽しくやっていきたいと話された。

本日も会長から焼酎、當摩彰子さんから銘酒の差入れがあり、会は和やかに進行した。赤荻さんによる写真撮影のあと、井垣さんの音頭により全員で「東村山稲門会の歌」、「早稲田大学校歌」（1コーラスだけ）を斉唱し、会はお開きとなった。



私の出身は「東村山」

細山和男（S48・第一文学部）

「東村山生まれの神戸育ち——」いろいろな自己紹介の席で、私はこう切り出すことが多かった。それは間違いではないのだが、より正確に言えば60までの大半をこの地で生活し、奇跡と偶然が重なってティーンエイジに重なる七年を彼の地で過ごした、と言うことが本当だ。

人も時間も濃密で、風俗も風景も豊饒な神戸での七年間を持ったからこそ、私は稲門会の一員でいられる、そう思っている。

私は東村山秋津の土着の人間である。

昭和30年、化成小学校秋津分校に入学した。あの志村某も同級生である。古老に聞けば、当時の北多摩郡東村山町南秋津の世帯数は47だそうだ。（45世帯だという説もある。）

『変なおじさん』という志村氏の自伝（そう言えるかどうか疑問だが）がある。（本屋で少し立ち読みしたがとても買う気にはならなかった）その一項に「クレヨンを食う少女」があった。私も薄々覚えている。その少女の名前にも心当たりはある。彼はそれを「変なおじさん」の変な幼年体験のネタとして扱っている。

特段の医学知識など持たなくても、これが寄生虫に侵されたことに拠るものだというくらいは判るはずだ。時代劇にさえ、土壁にむしゃぶりつく少女にひげ面の老医師が虫下しを処方する場面が描かれたりする。

悲惨な、情けない、貧相な、悲しい「分校」だった。

映画会などが年に数回あった。そういう時は「本校」まで歩いて見に行くのである。子供の足では優に一時間はかかっただろう。覚えているのは「涙の敢闘賞——名寄岩物語」「我は海の子」など。内容はともかく、暗幕で閉ざされた閉鎖空間が私には恐怖だった。

私は少女と連れだって登校した。それを理由に酷いいじめにあった。

私が「級長」に選ばれると、何々屋の屋号を持つ豪農の息子をクラスの長に据えたかったらしい教師は私に無理難題を強いた。私は次第に寡黙になり、難題を地道に解いていかざるを得なかった。

私は地元に友達を持たない。

不惑のころまで、私には「おとなしい」と「真面目」という陰影が取り憑いていた。それは、こんな幼児体験のトラウマかもしれない。

もっとも、最近の小説やエンターテインメントには、しばしばこういうテーマが“お決まり”のように扱われる。（映画化され来月公開される『白夜行』などもその典型です。そのなかの一シーンは国分寺北口の喫茶店で撮られています。——話のネタに）

「私」は現象に過ぎない、とでも思うことにしようか？

昨日、B氏の出版記念パーティーに招かれた。その場で私は「東村山」の印象について聞いてみた。答は「田舎臭」「ムラ」「暗い闇」——マイナーイメージがいかに定着しているかを、改めて思い知った。

それでも私は「東村山出身」である。

昨年この稲門会の席上で大西初代会長が、私の後を受けて発言され「（自分も貴方の先住していた）秋津に越してきて——いじめられました」と低い声で話された。

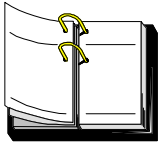
私も幾度も理不尽な扱いを受け、その不条理は今も続いている。

こういう話が蟠りなくできるのも稲門会の席だけだ。

もっと自由に——問題提起があり反論があり妥協点を探し、そこから別の問題が浮かび上がりそれへの反論があり——正反合のディベートができる場が必要ではないだろうか、そう考えています。

小亀会長が指摘されるように、私も何々の会などに取り込まれたり徒党を組んだりすることを嫌う。いい歳をして、北は暑寒別岳からアルプスは針ノ木・蓮華、鹿児島は高隈山・大簗柄岳まで日本中の山々を登り歩いているが、専ら単独行だ。

昔、『何より駄目な独逸』という著作があった。その著者こそが「誰よりもドイツ愛国の人」であったという。そのコンテクストで「何処より駄目な東村山」を、私は単独行の心構えで訴え続けなければならないのではないか、とも感じています。



今月の行事（2月）

- 5日（土） 2月度役員会
雑学講座
カラオケ同好会
7日（月） テニス同好会
19日（土） 囲碁同好会
26日（土） 俳句同好会

3月の予定

- 5日（土） 3月度役員会
3・4月度合同お誕生会
カラオケ同好会
6日（日） テニス同好会
25日（金） ゴルフ同好会



編集局だより

○今年の干支は卯ですね。干支は十干と十二支の組み合わせですから、正確には辛卯ですが、一般的には十二支で言うので今年はウサギ年です。ある程度の年齢になれば自分の生まれ年の干支も自然と覚えていくのではないのでしょうか。

○先日、役所での書類申請の際、父親の生年月日を書く欄で手が止まってしまいました。「生まれ年」が1年あいまいなのです。どちらから分からない。父が亡くなって50年以上経ちます。「命日は忘れないのに生年月日はうろ覚えだ！」それでも干支はしっかり覚えていました。母の生年月日や干支を頼りにちょっと考えてから書いわけです。西暦、和暦、干支と年を表す方法はいろいろで面倒くさい時もありますが、思わぬところで役に立つこともあるのです。

○次号の原稿締め切りは2月21日（月）です。よろしくお願いいたします。

（中村）

fax: 042-391-0581 email: mym-naka@u01.gate01.com

俳壇

雪積る日頃の田畑有りや無し 八木 竜湖
無精髭マスクの域を越えにけり 栗島 三郎
酒気帯びの声豪快に初電話 井垣 稲雀
読初めは「老の才覚」綾子の書
いそいそとクラブ担いで四日かな 出田 麦穂
糸口のつかめぬ国の去年今年
読み返す父の日記や冬ごもり
寒風に僧身じろがず鉢捧げ 幸田 瑞雄
寒の入りバスに駆け込むシルバー連 菊田 一平
鳩浮かべ西日に霞む多摩の湖
うおんうおんと削る鉛筆大旦 小永井 哲哉
食積みのお重のはやもがらんど
着ぶくれて背中合わせの駅の椅子
訪ね来て下京の露地冬うらら
（前号掲載洩れ）
小春日を充たし交番ガラス張り
穂すきと夕映えのせて持ち去りぬ 高部 糸行
^{ろはな}炉咄の尽きずぼんぼん時計鳴る
陽だまりの根分けに時を忘れけり 内藤 慎
坪庭の山茶花見やり茶を啜る
隣人の笑顔に出会う大旦
丸本 北窓
門松を払へばただの住まひかな
松過ぎて医者に通ふも定めなり